



ひかりいっぱい新聞

第19回日本ロービジョン学会学術総会 優秀ポスター賞受賞

院長 九州眼科学会で基調講演 院長 山川 良治

優秀ポスター賞をいただいて 視能訓練士 西山幸代

順調に終わった白内障手術…その目に乱視は残っていませんか? 副院長 木村 格

乳児でも度が測れます～スポット™ビジョン スクリーナー～ 検査課長 青木弘美

左から木村聡副院長、西山、氏間准教授、青木検査課長



第19回日本ロービジョン学会学術総会 優秀ポスター賞受賞

優秀ポスター賞をいただいて

視能訓練士 西山 幸代

第19回日本ロービジョン学会学術総会が、2018年6月15日から16日の2日間にわたり北海道旭川で開催されました。

木村眼科内科病院を中心に、広島大学大学院教育学研究科、奈良井眼科、出田眼科病院の共同で「ロービジョン外来でのタブレット活用の有用性について」という演題でポスター発表を行い、優秀ポスター賞を受賞致しました。このように賞をいただく事など、私には全く縁のないものだと思っていましたので、発表を聞いた時には信じられない気持ちでした。

(次ページに続く)

院長 九州眼科学会で基調講演

院長 山川 良治



2018年5月25日から27日まで、長崎大学眼科主催で行われた第88回九州眼科学会で基調講演を行ってきました。

学会から『基調講演をお願いします』と言われたので辞書をみたところ、基調講演とは、講演会や政党の大会などで、会の目的や基本的な方針を明らかにするために発表される話となっていましたので、演題名は「九州眼科学会と私」としました。

内容の一つは小倉記念病院に赴任してから、約25年間九州眼科学会とかかわってきたことです。私は、1989年から小倉記念病院、1992年から琉球大学、そして1999年からは久留米大学に赴任したため、九州眼科学会には20回以上参加しました。2000年の九州眼科学会では特別講演を行い、

2003年(平成15年)第73回、2014年(平26年)第84回の九州眼科学会を主催しています。

もう一つの内容は、九州時代の経験から、九州は感染症(角膜潰瘍、網膜・ぶどう膜の感染症)が多い、そして落屑緑内障が多いということを示し、今後これらの話題を取り上げることで、学会の特色をだすべきだと提言して講演を終わりました。

(前ページから続く)

ご指導頂いた広島大学の氏間准教授、奈良井先生、当院のロービジョン担当医である木村聡医師、検査に協力してもらった方々に、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の発表は視力をよくする補助器具としてタブレット端末を応用する方法です。タブレットは誰でも購入でき、容易に扱う事が出来る画期的なもので、拡大、白黒反転、音声案内など、この端末一つで行う事が出来ます。発表内容は、この特性を利用してタブレットのどのソフトを使用すれば見えにくいものがどのくらい見えるようになるのかというものでした。この発表が学会で認められましたので、今後はさらに低視力の方達のため、一日も早くこの方法を発展・普及させていかなければと感じております。

思い返せば、私がロービジョンについて学ぶようになったきっかけは、2年前、氏間先生のタブレットを応用した研究に出会い心から素晴らしいと感激した事が始まりです。私の中で一生を通し視能訓練士として、何かもっと出来るのではと模索していたところだったので、思い切ってタブレット講習を実践していた木村眼科内科病院に転職する事にしました。

実際この講習で、ある70歳代の方は、0.1の視力値から0.8まで見る事ができるようになられ、「人生が明るくなりました」と言って喜んで頂き、私にはとても励みになりました。今後もっと多くの方に見える事の幸せを味わっていただけるよう精進してまいります。



ロービジョン学会の発表ポスターの前にて

「順調に終わった白内障手術… その目に乱視は残っていませんか？」

副院長 木村 格



一昔前の白内障手術は濁った水晶体を砕いて分割して吸引除去後に、人工レンズを眼内に挿入したら完了とされてきました。

しかし症例によっては白内障手術自体が完璧でも、乱視が原因で「手術して明るくなったけど、物や字がくっきり見えない」というケースがあります。

この問題に対して数年前から乱視を矯正する機能を持つ眼内レンズが登場し、術後乱視の問題は解決するかに思いましたが、それでも術後に乱視による見えにくさは無くなりませんでした。なぜなら乱視用の眼内レンズはただ挿入しただけは十分な効果が得られず、目標となる位置に誤差なく固定しないとレンズの機能が十分に発揮されないからです。とはいえ従来の方

法では目標の位置にレンズを正確に固定するのは難しく、世界的にも白内障術後の乱視が問題視されていました。

そこで今回当院に導入したのが「VERION™(ベリオン)イメージガイドシステム」という最新のリアルタイムサージカルガイダンスシステムです。

VERIONは、術前に患者さんの乱視や眼の表面の特徴を精密に撮影、把握し、眼内レンズの度数計算や、手術のさいの角膜の切開位置などを計画します。それを手術中の術者が顕微鏡で見ている術野に乱視用の眼内レンズを固定する位置などが一目でわかるよう全ての必要な情報を投影してくれます。

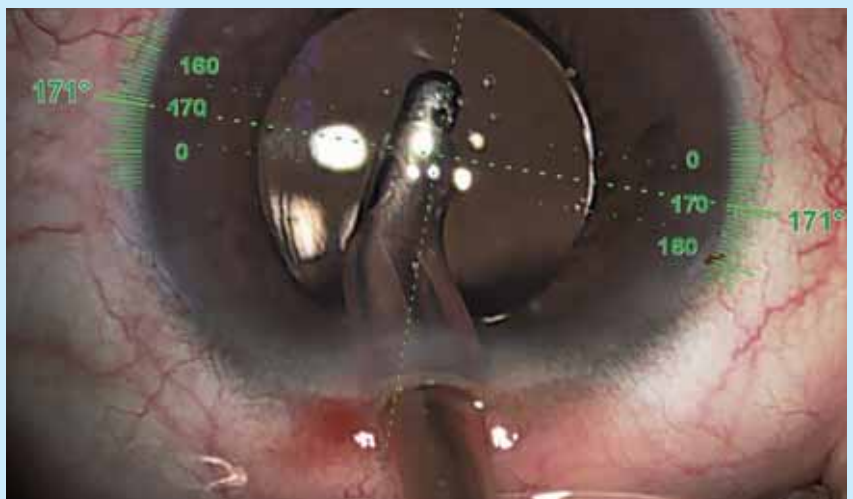
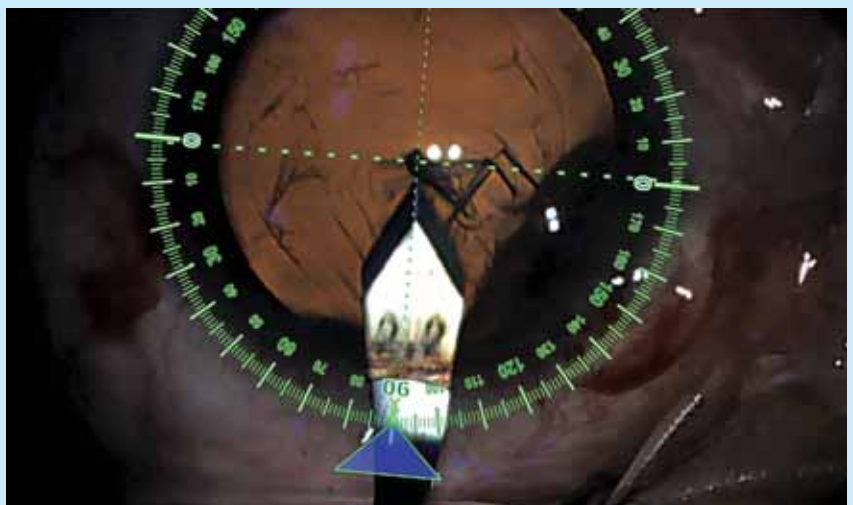
この目標指標は正確で、当院での白内障手術の術後視力の向上に寄与してくれています。

あなたも白内障術後に乱視に邪魔されない見えかたを手に入れてみませんか。

詳しくは担当主治医にご遠慮なくお尋ね下さい。



VERIONは、手術中に患者さんの乱視の方向を正確に術野に投影し、白内障手術をサポートしてくれます。



乳児でも度が測れます

～スポット™ビジョン スクリーナー～

検査課長 青木弘美

先日、4か月の乳児を連れてお母様が「目線がずれているのでは」と来院されました。

一見して内斜視が疑われ、スポット™ビジョン スクリーナー検査をおこない、強い遠視性乱視と内斜視とわかり、すぐに治療を始めることができました。

内斜視の場合、両眼で見る働きが正常に発達しないので弱視になりやすく、早期に手術が必要です。また遠視が強い場合には眼鏡で矯正することで斜視の治療にもなるのです。

近視・遠視・乱視という屈折度数を他覚的に測定する機器はレフラクトメータといい、視力検査のさい椅子に座り顎台に顎を乗せ視標を覗いて測定するお馴染みの機器があります。しかし、乳幼児には顎台に乗せてじっとする姿勢が困難で、これまではタオルでぐるぐる巻きにしてスキア法というレンズと光で度数を測定する方法か、手持ち型のレフラクトメータで測定していましたが、これは機器がかなり顔に近づくので乳幼児は恐れて大泣き大暴れになってしまうという欠点がありました。

昨年当院に導入された本装置は、6か月乳児から成人、移動が困難な車椅子や高齢の患者さんにも、1m離れた所から両眼開けた自然な形のまま両眼同時に測定できる携帯型レフラクトメータです。操作は簡便で瞬時に測定でき、しかも屈折度数と同時に斜視の検出も行います。検査結果の精度は高く信頼性も高く評価されています。

今後幼稚園の健診など様々な場面で活用していきたいと考えています。



スポット™ビジョン スクリーナー



10か月乳児のスポット™ビジョン
スクリーナー検査風景



医療法人社団ひかり会

木村眼科内科病院

〒737-0029 広島県呉市宝町3-15

TEL : 0823-22-5544 [代表]

0823-21-1000 [病棟専用・夜間・休日]

FAX : 0823-25-9010

<http://www.kimura-eye.or.jp/>

医療法人社団ひかり会

焼山木村眼科

〒737-0935 広島県呉市焼山中央1丁目10-9

TEL : 0823-33-8259

FAX : 0823-33-8279

木村眼科

検索

できます。